



【地域の概況と課題】

- 笠間市は、平成18年に1市2町が合併し誕生した人口73,000人（2020年国勢調査）の地方都市
- 水戸市内等への通勤世帯が多く、高齢化も進展し、買物困難者も増加。特に、山間部や昭和の後半にかけて宅地造成された地区などを主として、コロナ以降、地域の催しなどコミュニティの交流機会が減少、ゴミ出しや草刈りなど日常生活の課題が顕在化

【対応方向と特徴】

- 市は、「新たなサービスの提供と持続」と「行政サービスの範囲の拡大・複雑化」への解決策として、公民連携推進条例を制定した上で、①**健康・福祉**、②**移動**、③**買物**、④**地域活動**の4つの分野の課題について実験的なサービスを行うモデル事業を実施中
- その一つとして、デジタル田園都市国家構想交付金（R4補正：デジタル実装タイプTYPE1）を活用し、市民の移動負担、行政サービスの向上、デジタルデバインド対策等を主な目的として「動く市役所」の運用を開始し、行政手続やデジタル機器操作などの申請・相談等を実施
- 令和6年からは、「動く市役所」を公民館での定期集会和併せて、移動販売車と同時運行する取組を試験的に実施。**地域の住民が、地域活動→買い物→行政相談と分野横断的に行える機会を創出することで、住民の利便性向上と地域コミュニティの交流の場づくりと活性化を推進**

＜市民から寄せられる悩み・相談・要望等＞

- ✓ 高齢化にコロナ禍が重なり、お祭りや敬老会などの交流機会や地域コミュニティの活動が減った。この先、地域活動を維持できるか不安
- ✓ 近くに気軽に相談できる人や頼れる人がおらず、地域のゴミ出しや草刈りなど日常生活や住環境の困りごとが増えた
- ✓ 高齢となり免許返納するつもりだが、足腰が弱りバス停までの移動が難しく、スーパーまで食品や日用品の買物に行けなくなってしまふ
- ✓ 集団検診など市役所にオンライン申請できることは知っているが、パソコンやスマホに慣れておらず、不安で利用できない
- ✓ デジタルを利用しつつも、地域の人と交流したり、商品を手にとって買物したりして、地域の中でリアルな日常生活を楽しんで元気に暮らし続けたい



市役所



動く市役所

- ※「動く市役所」
- ・オンライン相談
 - ・各種申請手続きの支援
 - ・スマートフォンの操作相談（市職員が対応）
 - ・集団健診のWeb予約サービス
 - ・電子回覧板の確認・検索方法
 - ・LINEの使い方
 - ・スマホ・ウェアラブル端末の貸出など



移動販売車



スーパー店舗

- ※「移動販売車」
- ・生活必需品の購入
 - ・交流の場の創出
 - ・販売員による見守りなど



移動
地域活動

地域コミュニティにおける
持続的な交流の場の創出と活性化

買物
健康・福祉

